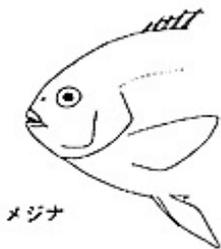


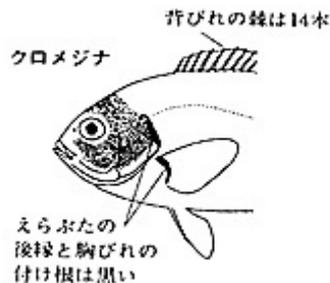
◎釣りは汚さない◎持って行ったものはすべて持ち帰る◎釣り場ではお互いに譲り合う◎地元の人たちと仲良く

今日のお話

■ メジナ [グレ]



メジナ



メジナ [グレ] のフカセ釣り。

強く、直線的なすどい引き。

型が良いのは、1月～3月ごろ。

6月～9月は、小メジナまじりの夏のシーズンとなります。

フカセ釣りは、磯などで潮の流れにのせるというのが本来の姿ですが、防波堤では、下に降ろすことになります。

ウキフカセ釣りは、ウキ下を調整して食いタナを探ることができます。

[特徴]

●メジナ・イスズミのグループ

●最も大きな特徴は、あごの歯にあります。

外側に並ぶ歯は細かいが、お互いに密接していて、あたかも一枚の板状の歯に見える。

それぞれの歯の先端は、ヘラ状で、海藻などをはぎ取るのに適している。[釣りの魚より]

●メジナについて

- 背びれの棘は15本
- 色：黒い
- 各鱗に濃い暗色斑がある
- えらぶたの上のにこぎり歯状の固い隆起縁がある
- 口は小さい
- あごの各歯の先端は、三つ又になっている
- 成魚 40cm
- 海藻、カニなど小動物を食べる
- 視覚はよい
- 沿岸の岩礁域に生息している
- 昼間もよいが、「夕まずめ」は食いが良い
- 産卵は、3～7月

●クロメジナについて（メジナと違うところ）

- 背びれの棘は14本
- 各鱗に濃い暗色斑がない
- えらぶたの後縁と胸びれ、付け根は、真黒色
- 成魚 50cm
- 産卵は、10～12月

[仕掛]

- コマセしながらフカセ釣りです。

[エサ]

●マキエ：

オキアミのブロック（3Kg）を砕きます。

配合エサは、1/2袋が目安。

海水を混ぜます。コマセがしっとりする程度がよいです。

柄杓で試しに投入してみます。杓にくっついていたら水分不足です。

コマセは、釣りの重要な役割です。

まき続けていれば、魚は寄ってきます。

仕掛とコマセは、同調させることです。

あっちにまいたり、こっちにまいたりして、魚がばらけないようにします。

●ツケエ：

生オキアミを主として、加工オキアミを用意しておき食いが渋ったとき利用します。

尾羽根は切りとります。切り口から背と身の間ハリを通します。

食いが悪い時は、頭を切ると食いの反応があります。

ウキふかせ釣の仕掛け

■フカセ釣りの仕掛けでは、ラインは2種類使います。道糸とハリスです。

■道糸

ナイロンは、伸びがよく、魚の引きを吸収し、衝撃に強く、リールによくなじみます。

■ハリス

傷に強い、クロロカーボンを使います。道糸より、ワンサイズ細くします。

■ガン玉：1点打ちより2点打ちの方が潮のりがよいです。

[B] から [6B] まで6種類あります。ガン玉の重さを記号で表示しています。

B=0.55g 2B=0.75g

[B] + [B] = [2B] ではありません。

■ガン玉の使い方の目安

2ヒロ以内… [B]

4ヒロ以内… [3B] を使っています。

1ヒロ=1.5mです。

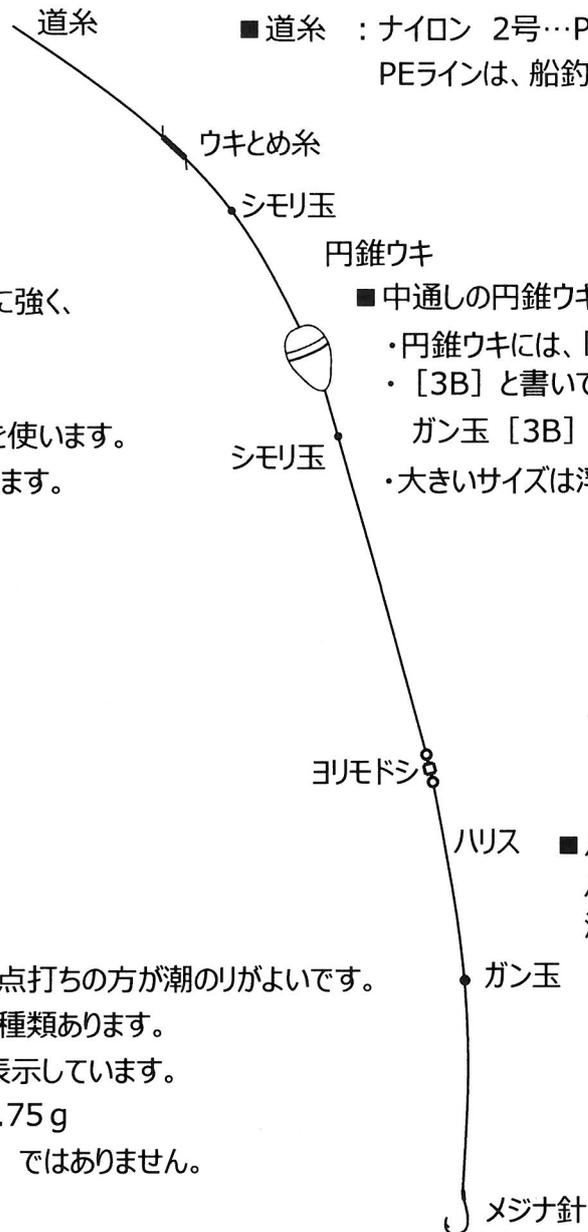
■タナの見つけ方

ウキ下を長くして、底まで辿り着けます。

小刻みに上方向に調整していくとタナがわかります。

■釣竿：1.5号 4.8m

■道糸：ナイロン 2号…PEラインは不向きです。PEラインは、船釣では、必須アイテムです。



■中通しの円錐ウキ（ドングリ型）が一般的です。

・円錐ウキには、「B」とか「3B」とか書いてあります。

・[3B] と書いてあれば、

ガン玉 [3B] が浮力限界という目安をしめています。

・大きいサイズは浮力大ですが、感度は小です。

■ハリス：1.5号 1.5m

ハリス：2号 2.0m

沈みが良いクロロカーボンを使います。

■ハリ：グレ 4号~6号

食いが渋った時は3号で意外な効果があります。

ハリもエサの一部だと思って、エサを自然な姿となるようにハリを通します。

■エサ取り対策

足元にエサ取りを集めることです。

仕掛けを入れたら、まず足元にコマセを撒きます。

そのあと、すばやく仕掛けに向かってコマセを撒きます。

足元にエサ取りを集めると釣果につながります。